

# 秋田駒ヶ岳・鳥海山山行報告



秋田駒ヶ岳の男女(おなめ)岳(1637m)



大和 田辺 鳥切



チョウカイフスマ



鳥海山の新山(2236m)(左)と七高山(2229m)

記 鳥切昇治

期 日 平成24年 7月29日(日)～ 8月 1日(水)

場 所 秋田駒ヶ岳(1637m)・鳥海山(2236m)

参加者 (L)田邊浩二(75歳) 大和義孝(75歳) 鳥切昇治(72歳)

## はじめに

OBの集いで東北の山を4案企画し提案した所、秋田駒ヶ岳と鳥海山に登ることになった。メンバーは、当初4名だったが1名が行けなくなり3名で登って来た。天候にも恵まれ、景色と高山植物を堪能し、事故も無く山行を終えることが出来た。

## 7月29日(日)天候:晴 横浜～田沢湖高原

加藤ちゃんが急に行けなくなり、大和さんの車で鳥切、田邊さんをピックアップ、幸浦から湾岸、箱崎経由で東北道に入る。日曜日とあってトラックは少ないが車は多い。蓮田SAから安達太良SAまで運転を交代する。前沢SAで給油して盛岡ICで一般道に出、1時間程で田沢湖高原温泉に到着した。



田沢プラトーホテル前で



ホテルの食堂(囲炉裏)で田辺(左)大和(右)

今宵の宿を予約していなかったため、観光案内所を探したが無くておみやげ店に入り情報を得る。店主が親切で電話で聞いてくれ、ホテルまで案内してくれた。探せば手頃な宿があるのだろうが、最終的にはそのホテルに宿泊することに決め

た。外観は会社の保養所の様であったが、内部の雰囲気は良く、食事、部屋、温泉とも満足出来るものであった。明日のシャトルバスの停留所や時刻を確認し、おみやげ店の店主にお礼の挨拶をしてきた。田沢湖高原温泉から秋田駒は見える筈だが雲の中で全く見えなかった。

明日の宿、湯ノ台温泉の予約電話を入れたら、生憎と満室で近くのコテージに泊ることになった。

#### コースタイム

大和宅 5:20—鳥切宅 5:30—田邊宅付近 5:55—幸浦IC6:05—(首都高湾岸、箱崎経由)—川口JCT6:58—岩槻料金所 7:00—7:10 蓮田SA7:44—9:36 安達太良SA9:59—12:05 前沢SA13:00—盛岡IC13:41—14:50 田沢湖高原温泉(田沢プラトーホテル泊)

#### 7月30日(月)天候:晴 秋田駒ヶ岳登山・移動

予定より早く朝食を食べることが出来、ホテルを出て始発停留所がある「アルバこまくさ」まで歩く。



八合目の駐車場(バス停)・小屋



鮎の塩焼き



食堂全景(7/30 朝食時)



登山口にて鳥切(左)田辺(右)



7:42発のシャトルバスは、ほぼ席が埋まっ  
て次の停留所で補助席まで一杯になった。

バスは、狭いつづら折りの道路を上って行く。時折ガスが切れて秋田駒が姿を見せる。駒ヶ岳八合目に着く。登山者が多い。マイカーの乗り入れ規制をしている割に駐車場は結構広い。



片倉岳の登りのお花畑



片倉岳からの男女岳



片倉岳を過ぎ緩やかな登りとなる山道

晴れているのに秋田駒はガスで見え隠れする。反時計回りの片倉コースを登る。男女(おなめ)岳の山腹を緩やかに登って行く。片倉岳の道標を過ぎるとニッコウキスゲが点々と咲いている。1時間程で阿弥陀池の畔に着く。



片倉岳を過ぎた斜面のニッコウキスゲの群落



阿弥陀池

東西に細長い池で反対側に阿弥陀池避難小屋が見える。右手に男岳の登り口がありニッコウキスゲが群落している。最初に男女岳に登ろうと阿弥陀池の左側の木道に行く。阿弥陀池は浅い様だ。避難小屋前から男女岳に登る。整備された急坂の道を登る。結構きつい登りだった。

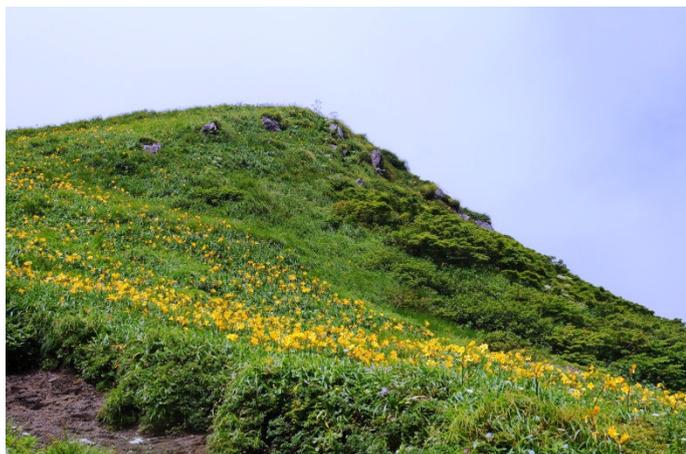


霧の男女岳へ階段状の道を登る



男女(おなめ)岳(1637m)山頂

男女岳山頂(1637m)には二等三角点がある。ガスが流れ視界が悪い。記念撮影をして下る。避難小屋で一休みしてから男岳に登る。登り口のニッコウキスゲに目を奪われる。この頃からガスが晴れて素晴らしい景色が広が



男岳登り口のニッコウキスゲの群落



男岳(左奥)への登りで撮影する鳥切

る。男岳山頂には駒形神社が祀られている。田沢湖は雲に覆われて見えないのが残念。北側に岩手山が霞んで見える。登って来た道をコルまで戻り、尾根通しに横岳に向う。尾根筋は高山植物のお花畑で目を楽しませてくれる。



男岳(1623m)山頂にて



男岳山頂付近から、霞む岩手山



男岳から阿弥陀池、焼森山(左)と横岳(右)



男岳から見下ろす火口原

横岳に着いて鳥切は、コマクサが群落していると言う大焼砂まで行って来る。コマクサの小さい株は一杯あるが、残念なことに花の盛りを過ぎていた。横岳に戻るとバスの時間まで1時間しかないと言う。焼森経由で駒ヶ岳八合目まで下る。焼森周辺にもコマクサが咲いていた。予定したシャトルバスに十分間に合っ田沢湖高原温泉のホテルに無事戻った。



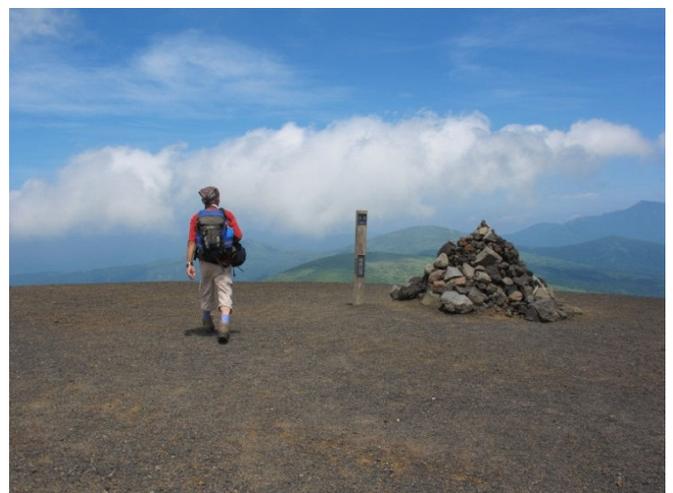
横岳へ向かう稜線のお花畑



横岳山頂



横岳から大焼砂を望む



焼森山頂



焼森山のコマクサ

焼森山のコマクサ



焼森山を下り八合目へ急ぐ



シヤクナゲ



チングルマ



シヤジン



ウスユキソウ



トウゲブキ



ハクサンフウロ

### 《湯ノ台温泉へ移動》

宿泊した田沢プラトーホテルの温泉で汗を流してから山形県側鳥海山登山口の湯ノ台へ移動する。角館に出て西に走り、秋田道の協和ICから河辺JCTを経由して日本海東北道を日本海に沿って南下する。この道路は、にかほ市まで伸びていて、何れは酒田みなとICに繋がるようだ。にかほICを出て国道7号を南下する。この辺りから鳥海山が見える筈なのだが雲がかかって見えない。遊佐町を過ぎた辺りでガソリンを給油する。今宵の食糧等を仕入れる為、スーパーを尋ねたところ親切に教えてくれた。湯ノ台登山口の八幡町のAコープで食糧を買い込み、湯ノ台温泉「鳥海山荘」の上にあると言う鳥海高原家族休暇村に向う。20分程で管理棟に着いた。鳥海山荘と同じ経営だそう。鍵をもらい指定されたコテージへ行く。高原にコテージが点在している。



泊まったコテージ

なかなか良い所だ。

二段ベッド、バス、トイレ、3畳程の畳にテーブル、冷蔵庫、テレビ、炊事用具一式が揃い、自炊生活ができるようになっている。買って来た夕食の弁当を食べ明日に備えて休む。

#### コースタイム

田沢湖高原温泉 7:35—7:40 アルバこまくさ 7:42—(シャトルバス)—8:07 駒ヶ岳八合目 8:17—9:20 阿弥陀池—9:25 阿弥陀池避難小屋 9:30—9:45 男女岳 9:48—10:00 阿弥陀池避難小屋 10:12—10:35 男岳 10:50—11:33 横岳(大焼砂往復20分) 11:55—12:33 駒ヶ岳八合目 12:55—(シャトルバス)—13:17 温泉街—13:22 田沢プラトールホテル 14:00—協和IC—(秋田道・日本海東北道経由)—にかほIC—八幡—17:40 鳥海高原家族旅行村(泊)

### 7月31日(火)天候:晴 鳥海山登山

鳥海山は雲の中だがさわやかな朝を迎えた。管理棟に鍵を返し、車道終点の駐車場まで上る。つづら折りの車道を、グングン高度を上げる。30分弱で駐車場に到着。休憩所、トイレがあり40~50台位は置けそう。既に20台程駐車している。ここの標高は約1200m。湯ノ台口の標高差は1000m程になる。

登山届を箱に入れて登り始める。石を敷き詰めた道は歩き難いが、灌木の中なので涼しい。20分程で滝ノ小屋着。小屋は営業している様だ。相変わらず鳥海山は雲の中で小屋の裏手に雪渓が見える。小屋の左手の沢を雪渓下まで詰めてから道は左にトラバースして行く。家族休暇村への分岐を過ぎてから八丁坂の登りにかかる。



滝ノ小屋登山口の駐車場



滝ノ小屋



小屋の左手の沢を行く



白糸ノ滝

タカネイブキボウフウ(?)の白い花とトウゲブキの黄色花のお花畑の中を登って行く。傾斜が緩み、しばらく行くと視界が開け河原宿小屋に着く。鳥海山はまだ雲の中だが正面に雪渓が目に入る。



タカネイブキボウフウ(左)?とシャジン



クルマユリ



トウゲブキ



お花畑の八丁坂を登る



河原宿小屋

雪渓に向って草原状を歩く。この辺りはニッコウキスゲのお花畑と聞いていたが全く咲いていなかった。夏道は左手にあるようだが、我々は雪渓を登る。ここが大雪渓の様で、少し歩いてから二人は軽アイゼンを着ける。傾斜も左程なくスプーンカットの雪渓は夏道より登り易い。雪渓が狭くなった所で夏道は右手側に渡り登る様だが、我々はそのまま大雪渓を詰める。小雪渓が右手に見えて来て夏道に移り、小雪渓の下



雪渓てまえに咲く  
ミヤマキンボウゲ

で一息入れる。小雪溪はガスで上部が良く見えない。帰りを見ると小雪溪の右側に夏道があり上部で雪溪をトラバースしていた。小雪溪を注意しながら登る。時折ガスが晴れ、先に登って行く登山者が、右上の夏道を登って行く。



大雪溪を登る



小雪溪を行く



小雪溪を登る、後方のヒョウタン状の雪溪が大雪溪



チングルマ

小雪溪を登り終え、夏道に出る。チングルマのお花畑が綺麗だ。傾斜がきつくなる。ここがあざみ坂で、ガスが切れて視界が良くなって来た。ハクサンシャクナゲ、ハクサンフウロ、ヨツバシオガマ、ハクサンシャジン等の高山植物が目を楽しませてくれる。稜線に登山者の姿が見え、傾斜が落ちて来ると伏拝岳(ふしおがみだけ)の分岐に着く。ガスの切れ間に千蛇谷、新山が見える。稜線を少し行くと道の脇にチョウカイフ

スマとイワブクロが咲いている。チョウカイツマの小さな5弁の白い花が密生して咲いている。チョウカイツマは鳥海山のシンボルと言われている花で良い時期に来た。



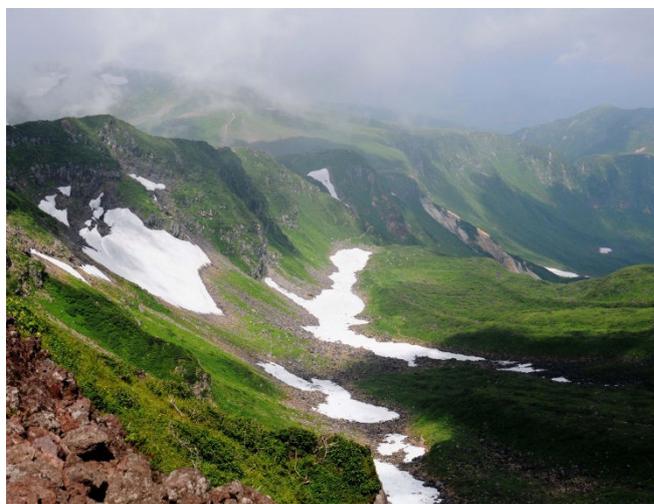
あざみ坂を登る、頭上の花はハクサンシャクナゲ



伏拝岳(ふしおがみだけ)に着く



伏拝岳からの新山



千蛇谷



ヨツバシオガマ



チョウカイツマとイワブクロ



イワベンケイ

行者岳のコルで新山の方に行く道が分岐する。鳥海山の最高峰は新山なので、七高山の方に行かずに、其方の道へ行くことにする。鉄梯子を下りトラバースして行くとチョウカイツマとイワベンケイが岩場の下に群生して咲いていた。大和さんがこの辺りでストックの先端を紛失してしまった。大きな岩が堆積した道を谷筋まで下り、登り返すと大物忌神社御室に着いた。



行者岳のはしごで千蛇谷上部に降りる



大物忌神社御室

ここにザックをデポし、大物忌神社にお参りして新山に向う。御室の左手から登り始めたが、岩が積み重なった所はルートが分り難く、ペンキ印を探しながらの登りで時間がかかる。大岩の割れ目の中を下り、登り返すと新山山頂に出た。このルートは登山道と言えるのだろうか？頂上は狭いので記念撮影を撮り下る。帰りは大物忌神社御室の裏側に回り、雪溪を下って戻って来た。此方のコースの方がずっと楽だった。



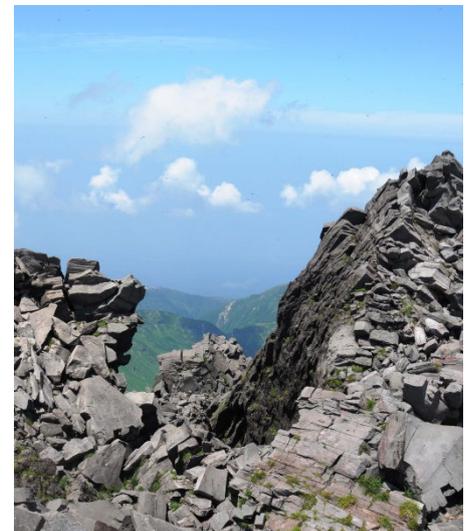
堆積した溶岩上を登る



頂上直下の岩の割れ目を通過



鳥海山最高峰新山(2236m)山頂にて



新山山頂付近溶岩の堆積



新山の下りで御室の裏手の雪溪に出る



七高山(3229m) 山頂にて

昼食を食べてから二人と別れ、七高山(2230m)へ登る。七高山で祓川方向を見たが、雲に覆われ見えなかった。稜線を辿って伏拝岳分岐で二人と合流した。大和さんのストックの先端が見つかり良かった。



七高山から千蛇谷と大物忌神社



七高山からの新山



あざみ坂を下る、前方に小雪溪、大雪溪を望む



大雪溪を下る

下山にかかる。下界と日本海は雲に覆われて見えないが、あざみ坂からは小雪溪、大雪溪、河原宿小屋まで良く見える。小雪溪まで下る。下山者は夏道を下っている。我々は雪溪を下る。夏道より楽で早い。大雪溪末端まで下り、雪解け水を飲む。冷たくておいしかった。



大雪溪から河原宿小屋



大雪溪の末端で水を飲み一息入れる

河原宿小屋を通過し、八丁坂の下部まで来ると、道に一人がうずくまり一人が電話をしていた。尋ねると68歳の男性が意識はハッキリしているが歩こうとするとフラフラして倒れてしまうので、救助を要請したとのこと。水を飲ませたかと尋ねると飲ませたと言う。救助を要請したのであれば日陰に寝かせて待つ方が良いと話し、別れた。熱中症と思われる。



お花畑の中を行く八丁坂を下る

湯ノ台口車道終点に到着すると、消防の救助隊員が来ていて遭難者の状況を聞かれた。その内にヘリが飛来し、遭難者は病院に收容されたそうだ。この日、千蛇谷でも山ガールが腹痛を起こし、救助出動は2件目だと言っていた。

今日の宿泊先、鳥海山荘に向ったが、道を間違え麓まで下ってしまった。鳥海山荘のフロントで手続きをしていると声を掛けられた。山形県岳連遭難対策委員長の阿曾氏で、今日の救助要請で登山口に来ていて、登山届を調べたら我々が提出した書類を見て下越田氏の名前があったので、下越田氏にお世話になっていたので鳥海山荘に伺ったとのこと。下越田氏によろしくとのことで、夕食時に飲物をご馳走になった。

鳥海山荘は寛げる宿で、温泉も食事もなかなか良かった。



八丁坂の下部からの滝ノ小屋



鳥海山荘



鳥海山荘の夕食

コースタイム

鳥海高原家族休暇村 5:05—5:30 湯ノ台口車道終点 5:40—5:59 滝ノ小屋 6:07—7:22 河原宿小屋—7:30  
 大雪溪末端—8:30 小雪溪下 8:40—8:48 小雪溪上 8:53—9:56 伏拝岳—行者岳 10:18—10:40 大物忌神社御  
 室 10:55—11:25 新山山頂 11:30—11:45 大物忌神社御室 12:15—[12:35 行者岳(大和・田邊)—12:53 伏拝  
 岳]12:32 七高山(鳥切)12:38—13:05 伏拝岳(合流) 13:10—小雪溪上部 13:45—14:33 大雪溪末端 14:39—河  
 原宿小屋 14:44—15:52 滝ノ小屋—16:13 湯ノ台口車道終点 16:48—17:15 鳥海山荘(泊)

8月01日(日)天候:晴 湯ノ台(鳥海山荘)～横浜



鳥海山荘前で

鳥海山荘出発前、外に出ると鳥海山が見え、昨日上り下りした雪溪も良く見える。麓まで下り八幡町で地酒を仕  
 入れ、買物をして酒田ICから山形道に入る。山形道の湯殿山IC～月山IC間は繋がっていない為一般道を走り、  
 月山ICから再び山形道に入る。車は少なく、村田JCTから東北道に入った。安達太良SAから羽生SAまで運転  
 を代る。心配した首都高は、湾岸の有明で少し渋滞しただけで無事横浜に帰着した。

コースタイム

鳥海山荘 8:20—八幡—酒田IC9:40—(山形道・東北道)—12:40 安達太良SA13:25—羽生SA—首都高—  
 幸浦IC—田邊宅—17:55 鳥切宅—18:15 大和宅

以上